

## ● 世界と奈良をつなぐ懸け橋 —— 奈良県総務部知事公室国際課

### はじめに

奈良県は、日本の国家成立の地であり、当時は現在の中国・韓国を通じて、海外から進んだ文明・文化を受容しました。このような歴史的・文化的特徴を背景に、2011年には中国・陝西省および韓国・忠清南道、2015年にはスイス・ベルン州、2021年にはウズベキスタン・サマルカンド州と、それぞれ友好提携を締結し、お互い学び合う姿勢で国際交流を進めています。

2025年に大阪・関西万博が開催されることは、奈良を国際的にアピールする絶好の機会となります。奈良が持っている国際性や歴史性を意識した交流に努めることで、更なる奈良の発展につなげたいと考えています。

### 奈良県の CIR の活動

本県では、中国、韓国、アメリカ、英国、フランス出身の計5人の国際交流員（CIR）が活躍しています。5人のうち中国・韓国・アメリカ・フランス出身の4人は国際課に、英国出身の1人は外国人支援センターに勤務しています。

CIRは、友好提携先との交流事業をはじめ、国際理解講座の実施や庁内の翻訳・通訳業務、留学生の生活支援や交流促進に向けた活動なども担っています。

本県には3つの世界遺産があることから、庁内各課からの各言語での翻訳作業の依頼の中には、寺社仏閣など



忠清南道知事来県時の夕食会で司会を務める韓国のイ CIR



国際理解講座の様子（右から中国の熊 CIR、韓国のイ CIR）

の世界遺産を構成する資産の説明が含まれていることもあります。CIRも休日に奈良の観光施設を巡るなどして、楽しみながら勉強しています。

#### ・情報誌「奈の良」の作成

「奈の良」とは、CIRが取材を行い、外国語（英・中（簡・繁）・韓・仏）と日本語で定期的に刊行している情報誌です。外国人の視点で魅力を感じる施設、行事、文化などをCIRが自ら検討・選定しているということが、一般的な観光情報誌とは異なる点です。2023年6月に発行した第18号では、フランス出身のロード CIR とアメリカ出身のジョンソン CIR が「水」と「山」をテーマに、美しい清流と深い山々に囲まれた東吉野村を取材しました。国際課ホームページにバックナンバーも掲載していますので、ぜひご覧ください！



「奈の良」はこちらから  
ご覧いただけます

#### ・外国人支援センターでの活躍

外国人支援センターでは、在住外国人に対する多言語による相談対応や、留学生への支援・交流促進のほか、防災・減災事業として、災害発生時における外国人の支援を図るため、災害時通訳・翻訳ボランティア養成研修、



「奈の良」取材中のフランスのロード CIR

市町村職員向け防災研修などを実施しています。

2014年からは、日本語がほとんど理解できない英語圏からの留学生への支援を充実させるため、新たに英語圏からの CIR を配置しました。現在は英国出身のホールズワース CIR が同センターで勤務しています。

ホールズワース CIR は、これまで留学生の交流促進のためにハイキングや料理イベントを企画・実施したり、県内大学生を対象とした英語教室を開催したりしています。今年7月に開催された留学生交流イベント「日仏祭」は、フランス生まれのホールズワース CIR が初めて主体となって企画・運営したイベントです。当日は、フランスの紹介ブースや、フランスや日本に関する発表、ボードゲームなどを実施し、たくさんの方に楽しんでいただきました。



「日仏祭」でゲームの説明を行う英国のホールズワース CIR

#### ・奈良県JET青年連絡協議会による国際交流イベント

このほか、県内の JET プログラム参加者は、県民との国際交流の推進を目的として、2001年に「奈良県 JET 青年連絡協議会」を結成し、年に数回、国際交流イベン

トを開催しています。県に配置される CIR は、この「奈良県 JET 青年連絡協議会」の歴代会長や委員を務め、自らイベントを企画・運営し、本県の多文化共生に貢献しています。

例年6月に開催する「インターナショナルアートフェスティバル」は、1年で最も大きなイベントです。今年も JET プログラム参加者による海外の地域紹介ブースや、文化体験などのアクティビティを実施しました。参加者からは「JET プログラム参加者と直接あひ、話すことができ、とても楽しかったです」「各国の文化もこれまで知らなかった現地の方の視点を教えていただいて、大変勉強になりました」など、楽しみながら国際交流ができたという声を多くいただきました。



国際交流イベントで進行をするアメリカのジョンソン CIR 大人も子どもも参加し、大いに盛り上がりました

## CIR とともに

海外の方々と交流を行っている時、言語や考え方、文化・習慣の違いにより、時に隔たりがあるかのように感じることもあります。しかし、CIR の意見を聞き、相手の方と丁寧に対話を重ねると、そのような隔たりが生じる背景を知ることができ、相手のことを深く理解できるようになります。

CIR はまさに世界と奈良をつなぐ懸け橋として活躍してくれています。これからも、国際交流や多文化共生に取り組む中で、CIR ならではの視点でアイデアを出してくれることに期待しています。